

**製品名:** ヒストン H1 (リン酸化 Thr17) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab04773

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	31kDa

**抗原情報**

遺伝子名	HIST1H1B
別名	HIST1H1B; H1F5; Histone H1.5; Histone H1a; Histone H1b; Histone H1s-3; HIST1H1D; H1F3; Histone H1.3; Histone H1c; Histone H1s-2; HIST1H1E; H1F4; Histone H1.4; Histone H1b; Histone H1s-4
遺伝子 ID	3009/3007/3008
SwissProt ID	P16401/P16402/P10412
免疫原	抗血清は、ヒトヒストン H1 の Thr17 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

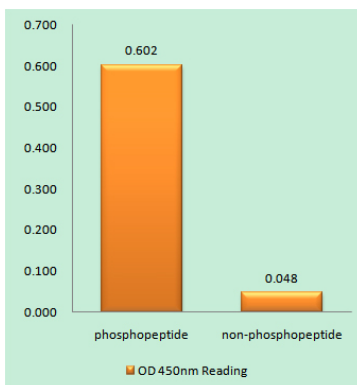
## 背景

ヒストンは、真核生物の染色体繊維のヌクレオソーム構造を担う基本的な核タンパク質です。4つのコアヒストン（H2A、H2B、H3、H4）はそれぞれ2分子ずつ八量体を形成し、その周囲に約146 bpのDNAがヌクレオソームと呼ばれる繰り返し単位に巻き付いています。リンカーヒストンであるH1は、ヌクレオソーム間のリンカーDNAと相互作用し、クロマチンを高次構造に凝縮する役割を果たします。この遺伝子はイントロンを持たず、ヒストンH1ファミリーに属する複製依存性ヒストンをコードしています。この遺伝子からの転写産物はポリA末端を欠き、代わりに回文性終結要素を含みます。この遺伝子は、染色体6p22-p21.3の小さなヒストン遺伝子クラスターに存在します。[RefSeq提供、2015年8月],機能:ヒストンH1は、ヌクレオソーム鎖の高次構造への凝縮に必要です。、類似性:ヒストンH1/H5ファミリーに属します。、

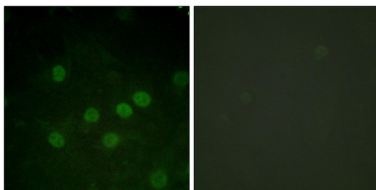
## 研究分野

タンパク質アセチル化

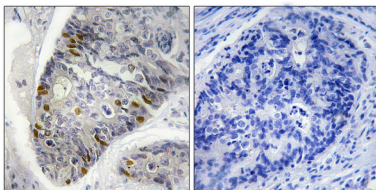
## 画像データ



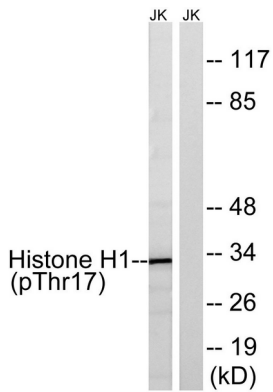
ヒストンH1（リン酸化Thr17）抗体を用いたリン酸化ペプチド（リン酸化左）および非リン酸化ペプチド（リン酸化右）免疫原の酵素結合免疫吸着測定法（リン酸化ELISA）



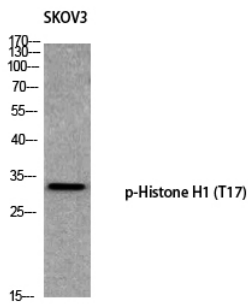
血清20%（30%）処理したHUVEC細胞をヒストンH1（リン酸化Thr17）抗体を用いて免疫蛍光染色で解析した。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした。



ヒストンH1（リン酸化Thr17）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 15 '処理した Jurkat 細胞ライセートの Histone H1 (リン酸化 Thr17) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



p-ヒストン H1 (T17) 抗体を用いた SKOV3 のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。